

医療人基礎力の涵養に向けた取り組み

小林隆司 藪脇健司 難波悦子 田島明子
岩田美幸 狩長弘親 三宅優紀 松田 勇

Promotion of basic capability for health care professional

Ryuji KOBAYASHI, Kenji YABUWAKI, Etsuko NANBA, Akiko TAJIMA
Miyuki IWATA, Hirochika KARINAGA, Yuki MIYAKE, Isamu MATSUDA

要 旨

大学のユニバーサル化に伴い、教育の範囲は、専門的な知識・技術にとどまらず、大人としての基本的態度にまで及んできている。本学科でも、医療人基礎力の涵養に向けたプログラムを模索し、新しい形式の授業を試行している。特に初年次教育は学習者主体の教育を実現するための入り口として、また教員と学生のコミュニケーションを促進するために重要である。

キーワード：教育、医療人基礎力、初年次プログラム

Key words : education, basic capability for health care professional, First year program

背 景

少子化・人口減少に伴う大学受験年代人口の減少、進学率の増加（高校生の半数が大学に進学）、大学数の増加等の要因から、大学環境は近年大きく変化した。特に、先端的な研究の推進のみを担い、落ちこぼれ対策の必要のない一部の大学を除けば、多くの大学が、学力レベルの低い学生が当然のように入学してくる環境（ユニバーサル・アクセス化）を受け入れなければならないのが現状である。

大学が狭き門であった時代であれば、入学さえできればエスカレーター式に卒業できる状態であっても、入学時点で、学生の質はある程度保証されていたと思われる。しかし現在は、大学全入時代であり、入るのも容易なら出るのも容易な状況となっている。またそれにより、学士号の保証する能力に対する信頼性が薄れ、学位の国際通用性にも問題ができてきている。

こうした背景のもと、中央教育審議会（中教審）は2008年3月に、大学の学士課程（学部）教育の改善策を『学士課程教育の構築に向けて』にまと

めた¹⁾。この答申の中で中教審は、各大学に対し、明確な「三つの方針」（①学位授与、②教育課程編成・実施、③入学者受入れ）に貫かれた教学経営、PDCAサイクルの確立を要請している。その中で特に、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」は最も重要なものだと考えられる。「入学者受け入れ方針」は、学生確保に悪戦苦闘し、選り好みを言っていない現状では有効性を欠くし、「教育課程の編成・実施」や学修評価の在り方は、学位授与の方針によってコントロールされるべきものだからである。中教審は、「学位授与の方針」に、学生が習得すべき学習成果（ラーニング・アウトカム）を明確に示すことを求め、「学位授与の方針」等の策定に向けた“参考指針”として、分野横断的に学士課程教育が共通して目指す学習成果の枠組み「学士力」を提案した（図1）。

この「学士力」の内容をみると、あえて大学で養うことというより、中等教育までに完了していても然るべきものではないかと思う。21世紀型市民の育成というと聞こえはいいが、初等・中等教育の積

各専攻分野を通じて培う「学士力」
～学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針～

1. 知識・理解
専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。
 - (1) 多文化・異文化に関する知識の理解
 - (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
2. 汎用的技能
知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能
 - (1) コミュニケーション・スキル
日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
 - (2) 数量的スキル
自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。
 - (3) 情報リテラシー
ICTを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
 - (4) 論理的思考力
情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。
 - (5) 問題解決力
問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。
3. 態度・志向性
 - (1) 自己管理能力
自らを律して行動できる。
 - (2) チームワーク、リーダーシップ
他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
 - (3) 倫理観
自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
 - (4) 市民としての社会的責任
社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。
 - (5) 生涯学習力
卒業後も自律・自立して学習できる。
4. 統合的な学習経験と創造的思考力
これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

図1 学士力（文部科学省）

み残しを、大学の専門教育に費やすべき時間を割いてまでやらなければならないのか？という気持ちはぬぐい去れない。

また、「学士力」に類似した枠組みとして、経済産業省の「社会人基礎力（表1）」や厚生労働省の「若年者就職基礎能力（図2）」というものも提唱されている^{2,3)}。これらの内容をみると、チームワークや職業人意識など、かつては、働きながら習得していったものも含まれているように思える。不況下で、企業が即戦力を求める気持ちはわからないではないが、大学は本来、その建学の理念やミッションに沿った教育成果を社会に還元するものである。そ

のことが職業準備につながる場合は多々あったとしても、職業準備そのものが教育目標になっていいのかという疑問がある。

つまり大学は、初等・中等教育や社会教育が引き受けてきた「大人としての基本的な態度」を初歩的なレベルから教え導くと同時に、「専門的な知識と技術」を高度なレベルにまで陶冶する必要に迫られているのである。言い方を変えれば、これからの大学は、標準的な教育と独自性のある教育の両方を実現しなければならないのである。

表1 社会人基礎力の3つの能力・12の要素（経済産業省）

分類	能力要素	内容
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	状況把握力	自分と周囲の人々と物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

1. コミュニケーション能力

- 意思疎通 自己主張と傾聴のバランスを取りながら効果的に意思疎通ができる。
 協調性 双方の主張の調整を図り、調和を保つことができる。
 自己表現力 状況にあった訴求力のあるプレゼンテーションを行うことができる。

2. 職業人意識

- 責任感 社会の一員として役割の自覚を持っている。
 向上心・探求心 働くことへの関心や意欲を持ちながら進んで課題を見つけ、レベルアップを目指すことができる。
 職業意識・勤労観 職業や勤労に対する広範な見方・考え方を持ち、意欲や態度等で示すことができる。

3. 基礎学力

- 読み書き 職務遂行に必要な文書知識を持っている。
 計算・数学的思考 職務遂行に必要な数学的な思考方法や知識を持っている。
 社会人常識 社会人として必要な常識を持っている。

4. ビジネスマナー

- 基本的なマナー 集団社会に必要な気持ちの良い受け答えやマナーの良い対応ができる。

5. 資格取得

- 情報技術関係の資格、経理・財務関係の資格、語学関係の資格

図2 若年者就職基礎能力の概要（厚生労働省）

本学の教育改革に関連した作業療法学科の

教育課程改変

上記のような背景のもと、本学においても様々な教育改革がおこなわれているが、本学科に直接関係あり特筆すべきものは、文部科学省の質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）に選定された「医療・福祉領域の連携スキル学習プログラム」と平成21年度大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラムに選定された「就活実践力の養成と総合的な就職支援プログラム」、保健科学部長の推進する「医療人基礎力を養成するプロジェクト」である。これらの詳細については省略するが、どれも背景のところで述べた「〇〇基礎力」と密接に関連しているものと考えられる。特に、保健科学部の

「医療人基礎力」については、それらを専門職の基礎的能力として再定義し、学部共通の教育課題とした点がユニークである。作業療法学科では、各GPおよびプロジェクトが打ち出したそれぞれの目標の整合性を図りながら、具体的な科目でどのような力をつけていくべきかを検討した（図3参照）。平成22年度からは、これに沿って、本学科でも医療人基礎力の涵養にむけた教育プログラムが開始されることになるが、本格導入は指定規則の変更に伴って実施されるカリキュラム改変作業の後になる。

新しい授業の試行

新たな教育プログラムの開始も見据えて、作業療法学科初年次生を対象に、平成21年度春期に、作

4年次	学生支援推進プログラム 就活実践力の養成と総合的な就職支援プログラム 実践	教育 GP 医療・福祉領域の連携スキル学習プログラム 連携スキル ・学科を越えた連携スキル演習 ・シナチュエーションロールプレイ ・対象者主体のアプローチの導入 ・他領域の学生とともにトレーニングする ・自己の専門性への理解を深める ・連携の技能を「スキル」として明確化	保健科学部 「医療人基礎力」を養成するプロジェクト プレゼンテーション・スキル 情報や知識を論理的に分析し表現でききる論理的思考力を養い、臨床現場における課題探求能力の涵養を目指す クリニカル・マインド 他者との共感や柔軟性、状況判断力、他者への動機づけや前向きな気持ちを生起させ助け合いながら社会的存在として人間理解を深める	作業療法学科 特に関連の強い科目と概要 就職活動支援・国家試験勉強支援 < 秋期 > 作業療法研究法演習 * 卒業研究発表会で、プレゼンテーション・スキルを高める < 春期 > 総合臨床実習 I・II * 実習を通して、連携スキルを実践し学ぶ * 症例報告会を通じて、プレゼンテーションスキルを高める < 秋期 > 作業療法研究法 * 研究活動を通じて、クリニカル・マインドを向上させる < 春期 > 臨床評価学実習 * 実習を通して、連携スキルを実践し学ぶ * 臨床に接し、クリニカル・マインドを深める * 現場を体験し、就職に関する適性発見力と目標設定力を涵養する
3年次	業界分析力 自己分析力	コミュニケーション・スキル 相手の話を丁寧に聞く力、人から学ぶ姿勢、自分の意見を分かりやすく伝える力、表情など非言語によるコミュニケーションを読み取る力を用いる。特に、同年代だけではなく幅広い年齢層の人に対しても対応できる力を習得する	コミュニケーション・スキル < 秋期 > キャリア開発 II * 連携スキル演習により、連携スキルを高める * 他領域のことを知り、業界分析力を向上させる < 春期 > 作業療法評価学 * 面接・観察の演習を通じて、コミュニケーション・スキルを高める * basic 12 の演習を通じて、ソーシャル・スキル及びコミュニケーションスキルを高める	< 秋期 > キャリア開発 I * テキストに沿って演習をおこない、自己分析力を高める * 教員や先輩の体験に触れ、作業療法の魅力を知り、アクティビティ・マインドを高める * 合宿により、ソーシャル・スキルやアクティビティ・マインドを育てる?
2年次	自己分析力	コミュニケーションスキル 専門職の関わりスキル - basic 12 1. あいさつをする 2. 自己紹介をする 3. 声かけをする 4. 依頼をする 5. 質問をする 6. 非言語スキルを用いる 7. 話す環境を整える 8. 主体性を引き出す 9. 共感する 10. 確認する 11. チームワークをはかる 12. 説明する	アクティビティ・マインド ソーシャル・スキル 主体性や積極性・意欲的な学習態度を高め、医療人を目指す学生として責任ある履修態度を入学後早期から促す。また、自己表現力や対人関係力、素直さ、柔軟さ、自立性を培う	< 秋期 > 人間と作業 * basic 12 の演習を通じて、ソーシャル・スキル及びコミュニケーションスキルを高める
1年次				

図3 各 GP およびプロジェクトと本学科の教育課程との関係

業療法の役割や魅力を伝える7回コースの授業がチューター（第2著者）によって設定された。これは、正規の授業時間外でおこなわれたものである。筆頭著者は、そのうちの1セッションを担当し、「基礎医学的な知識の重要性」についての授業を実施したので以下に紹介する。

1. ビデオ教材の視聴

今回は、韓国ドラマ『宮廷女官チャングムの誓い』（NHK エンタープライズ）のDVD-BOX Vol.10 第30話「新たなる挑戦」の一部を教材に使用した。まず、①背景の説明に続いて、②ビデオ視聴をおこなった。

①背景の説明

母の遺言に従って宮中で女官となったチャングムと母の親友であったハン最高尚宮（チェゴサンゲン）は、母の敵でもあるチェ尚宮（サンゲン）の策略によって、奴婢として済州島（チェジュド）へ流されてしまう。道中、ハン最高尚宮（チェゴサンゲン）は息絶え、チャングムは、自分たちを陥れた者たちを絶対に許さないと激しく怒り、復讐を誓う。

済州島（チェジュド）で、チャングムは、脱走事件ばかり起こしていたが、奴婢が宮中に戻る唯一の道は医女になることだと知り、医女チャンドクに弟子にして欲しいと頭を下げる。

②ビデオ視聴

チャンドクは、顔色から病状を診断する「五色診」について一方的にしゃべり、チャングムに全部覚えたかと聞く。初めて聞く言葉ばかりでよくわからないというチャングムに、チャンドクは、「私は一度しか言わないから聞いたさきから覚えなさい」というのみである。チャングムは仕事の最中も、休み時間も、寝る間も惜しんでそれらのことを暗記する。

後日、チャンドクはチャングムを診察に同行させ、抜き打ち的に、患者の五色診をするように命令する。とまどいながらもチャングムは、正確な診断を下すことができた。

チャンドクは、次に、十数冊の医学書を持ってきて、全部暗記するまで読みなさいとチャングムに命令する。いくらなんでもというチャングムに、「基礎があってこそ理解できる。その上で患者を診ると経験になる」とチャンドクはいう。理解しないと覚

えられないと食い下がるチャングムにチャンドクは「理解しなくていい。まず暗記、理解はそのあとでいい」と言って去っていく。チャングムは、ますます自主学習に努めるようになっていく。

チャングムは医学書を渡されたすぐ次の日から内容を聞かれ、間違っていると毎日足をたたかわれている。チャンドクは「医术で失敗したら人を傷つけることになるから、すべて正確に覚えないと意味がない」という。

2. 本学科で学習する基礎医学的科目の紹介

使用する教科書などを使い、基礎医学的科目で修得する必要がある知識の概略を説明した。

ビデオにあったように、基礎をきちんと学習しておかないと、臨床経験が身になっていかない点を、筆者の体験等を通じて一年次生に伝えた。

考 察

転換しつつある大学教育環境において、初年次教育の役割が重要性を増している。初年次教育を組み立てる視点について、中村⁴⁾は、接続教育・転換教育・導入教育の3点をあげている。その中、「転換教育」は、後期中等教育における学習から高等教育における学習への自覚を涵養するもので、受身の教育から能動的な教育へと学生の主体の転換を図ることだと述べている。

著者らの実施した授業は、転換教育の入り口の一部と考えられるが、学習者主体の学習（アクティブ・マインド、アクティブ・ラーニング）を成し遂げるには、関連した様々な取り組みが必要となってこよう。例えば、大学での学びのスタイルやスキル（調べ学習や討論、レポートなど）を習得させるレディネス学習、基礎医学的な知識（解剖学や生理学、運動学）の定着を図るおさらい学習などである。

さて、初年次学生のニードとして、先生に話を聞いてほしいとか声をかけてほしいという要望をよく耳にする。だが、初年次生を、「そののだれか」ではなく「○○さん」と認識できる教員はチューター等に限られているのが現状である。その中で、今回、通常であれば初年次生に関わることのない教員も全員参加し、学生と時間を共有することができた意義

は大きいと思われる。更に学生と教員とのコミュニケーションを促進するために、少人数グループでの活動なども今後検討している。教員と学生との対話が盛んになってくれば、就学意欲の喚起にもつながり、退学者対策に一役買うものと考えている。

以上、スキームは決まったものの、医療人基礎力教育の具体的な内容については、初年次における検証が始まったばかりである。今後、4年間を通じたカリキュラムのありかたについて検討を重ねていきたいと考えている。

Abstract

The range of the university education reaches not only the professional knowledge and technology but even also basic attitudes as the adult citizen. We execute the program for the basic capability for health care professional and are trying a new teaching method. Especially, the first year program is important to achieve

the active learning and to promote teacher-student communications.

文 献

- 1) 文部科学省. 学士課程教育の構築に向けて (審議のまとめ). (オンライン), 入手先 <http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm>, (参照 2009-11-27).
- 2) 経済産業省. 「社会人基礎力に関する研究会」中間取りまとめ. (オンライン), 入手先 <<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/torimatome.htm>>, (参照 2009-11-27).
- 3) 厚生労働省. 「若年者就職基礎能力支援事業 (“YES-プログラム”）」について. (オンライン), 入手先 <<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/syokunou/yes/index.html>>, (参照 2009-11-27).
- 4) 中村博幸 (2009) ゼミを中心としたカリキュラムの連続性. 嘉悦大学研究論集 51 (3) : 1-13